

令和8年度 東京都立国立高等学校 学校経営計画

校長 宮田 明子

I 目指す学校

校 訓	清く 正しく 朗らかに			
教 育 目 標	<p>全人教育を目指し、生徒が人間性豊かに成長することを願い、将来有為な社会形成者になることを希求して、次の目標達成に向けた教育を推進する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 自主性を持ち、責任を重んずる人になる。 2 明朗な気風を養い、個性と創造力の豊かな人になる。 3 社会に貢献し、困難・辛苦に耐え得る人になる。 			
スクールミッション	<p>Critical Thinking (物事の本質を問い続け、粘り強く考える思考法) Creative Thinking (自らもつ知識同士や他者とのつながりによる新たな発想) Collaboration (互いに補完し、発展させるための協働)</p> <p>を柱として、多様な見方・考え方を学ぶことで、課題発見・解決力、創造性を持つ人材を育成します。</p>			
スクールポリシー	(1) グラデュエーション・ポリシー			
	<p>自ら問いを立て、その解決に取り組む課題発見・課題解決力と、創造性をもった生徒 ——現状に甘んじることなく、自分や社会がより良くなるための 前向きな変化を模索する『チェンジ・メイカー』——</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 自分の頭で考え、自分の言葉で表現する力を充実・向上させ、前向きな批判精神を育成する。 2 大学入学後に、知の体系を専門的に学び、自分の能力をさらに発展させることができる基礎的な学力と教養、素養を身に付けさせる。 3 他者と協働しながら粘り強く課題解決に取り組む姿勢を育成する。 4 他者との協働において、相手の立場を尊重し、人として何が大切なことかを主体的に選択できる判断力を身に付けさせる。 			
	(2) カリキュラム・ポリシー			
	<p>学習活動と特別活動(部活動・学校行事)のいずれにおいても、はじめをつけてすべてをやり抜く事を目指す。「グラデュエーション・ポリシー」を踏まえ、具体的に育てたい資質・能力を「知識・技能(Knowledge)」、「思考・判断・表現(Ability)」、「主体的に学習に取り組む態度(Motivation)」で分けて言語化し、それぞれを基本要素の「3つのC(C1 C2 C3)」に分類した。</p> <p>(C1) Critical Thinking 既存の情報をうのみにせず、真偽を疑い、多面的に捉え、「なぜ?」「何のため?」という物事の本質を問い続けながら、粘り強く考えること。</p> <p>(C2) Creative Thinking 自らの持つ知識同士のつながりや、他者の持っている知識とのつながりによって新たな発想をすること。</p> <p>(C3) Collaboration 個人それぞれが、自己の強み弱みを客観的に分析した上で、弱みについては互いに補完し、強みについては互いに掛け合わせてさらに発展させるために協働すること。</p>			
		C1	C2	C3
「知識・技能」 (Knowledge)	▷教科で身に付けさせる力	○	○	○
「思考・判断・表現」 (Ability)	▷自分の頭で考える力	○	○	
	▷自分の言葉で伝える力			○
	▷他者と伝え合うことのできる力			○
	▷自分を客観視できる力	○		
	▷新たな価値観を作り出すことのできる力	○	○	○
	▷蓄積した知識を用いて考える力		○	
	▷状況に応じて何が重要なのかを主体的に判断する力	○		

		C 1	C 2	C 3
「主体的に学習に取り組む態度」(Motivation)	▷信念をもって積極的に行動することができる態度		○	○
	▷知の習得・活用・探究に努める態度		○	
	▷他者と関わろうとする態度			○
	▷礼を正す態度			○
	▷社会の変化に主体的に向き合う態度	○		
	▷新たな世界を逞しく切り拓こうとする態度		○	
	▷他者と協働しながら自らを高めていく態度			○
	▷粘り強く考える態度	○	○	○
	▷高い志によって課題の解決に取り組む態度	○	○	
	▷他者のために行動する態度			○
<p>主として教科での活動を中心に据えた学習活動では、「知識・技能」の項目を各教科・科目で設定する。そこに7つの「思考・判断・表現」と、10の「主体的に学習に取り組む態度」の中から、各教科・科目が学習活動で主眼に置く項目を選択する。</p> <p>特別活動では、上記の7つの「思考・判断・表現」と、10の「主体的に学習に取り組む態度」の中から、顧問や指導者等が特別活動で主眼に置く項目を選択する。</p>				
(3) アドミッション・ポリシー				
<p>「自ら問いを立て、その解決に取り組む課題発見・課題解決力と、創造性を持った生徒」の基本要素「3つのC」に基づいた、入学者の受け入れに関する方針。本校では、以下のような生徒の入学を求める。</p> <p>Critical Thinking (C1) 教科学習をはじめ、部活動や生徒会活動においても、既存の情報をうのみにせず、真意を疑い、物事の本質を問い続けながら粘り強く考えようとする生徒</p> <p>Creative Thinking (C2) 自らの持つ知識同士のつながりや、他者の持っている知識とのつながりによって、多方面において新たな発想をしようとする生徒</p> <p>Collaboration (C3) 個人それぞれが他者と協働し、自己の弱みについては補完し、強みについてはさらに発展させようとする生徒</p>				

II 中期的目標と方策

本校は創立以来、文武両道の校是のもと、進学実績、部活動、学校行事などに優れた成果を上げ、世界に貢献できる有為な人材を育成してきた。さらに進学指導重点校に指定されて以降、より一層の進学実績と都立高校の牽引役としての役割を期待されてきた。しかし、現在は都立中高一貫校の台頭や、学校の成り立ちから長年良い意味で競い合ってきた立川高校における創造理数科の設置等の周辺環境も大きく変化し、さらに高校の授業料無償化という厳しい環境を受け、学校の将来像は決して楽観視出来るものではない。今後、学校独自の方向性を従来にも増して明確にしていくことが求められている。そこで本校は、これまでの伝統と人的財産を土台に、探究活動に組織的に取り組む体制の構築、積極的な国際教育の推進を両軸に、DX化・AI化の進展を牽引し得る、21世紀を担う世界的視野を持ったグローバルリーダーの育成を目指す。同時に、進学指導重点校として生徒の高い進路希望を実現するため、難関国公立大学現役合格者数60人以上（内東大合格者数12人以上）、国公立大学現役合格者数150人以上を継続的な目標とするとともに、海外大学への進学も視野に入れて教育活動を展開する。さらに、部活動や学校行事を含め自主的に何事にも全力で取り組む意欲と向上心に溢れる生徒、人間性豊かな生徒の育成を実現するため、全教職員が一丸となって取り組んでいく。

1 学習活動

生徒が、課題発見・解決能力や言語的表現能力など多様な能力を練磨し、教養と知性溢れる人生の基礎を築くとともに、思考力・判断力・表現力等の能力や、主体的に学習に取り組む態度を育成し、深い学びが実現できるよう、教員の教科指導力の向上を図る。また、DXやAIの活用がさらに進展していく時代を牽引する人材を育成するため、一人1台端末を活用した授業実践を推進し、個別最適な学びに取り組む。

2 進路指導

進学指導重点校としての実績を踏まえ、キャリア教育の視点にたった3年間の進路指導計画に沿って系統的組織的な進路指導を行い、生徒の高い進路希望を実現し、進学指導重点校として求められる実績を残す。

3 探究活動

水曜5限「総合的な探究の時間」の内容と実施方法を昨年度より充実したものにすべく組織的・計画的に実施し、探究活動に学校全体で取り組む。探究活動をキャリア教育の一環として位置づけ、大学や研究機関等の外部機関との連携を活性化して質的向上を図るとともに、企業の連携先を確保して、生徒の進路実現に寄与する。

4 国際教育

自己のアイデンティティを確立し、日本の歴史や伝統文化を大切にすると同時に、多様性を重んじ、共生社会の実現や国際社会の平和と発展に貢献できる、世界を俯瞰した視野を持つ人材の育成を図る。

5 生徒指導

時間厳守を主とする規範意識を高める指導を丁寧に行うとともに、生徒の責任感や社会性を育む指導を行う。体罰の根絶に向けた取組を推進し、いじめ問題への対応については日常的に未然防止に取り組み、生命尊重の意識を醸成する指導を行うことで、いじめや生命に関わる事故のない、生徒が安心して学校生活を送ることが出来る環境を保証する。

また、交通ルール遵守の指導、自転車乗車時のヘルメット着用に係る指導を強化する。

6 募集・広報活動

教育内容や教育活動の成果を、授業公開、学校見学会・説明会や、ホームページ等のあらゆる機会と手段をとらえて迅速且つ計画的に広く都民に発信することにより広報活動の充実を図り、継続的に入学選抜一次(応募)倍率1.5倍以上を数値目標として募集対策に取り組む。

7 特別活動・部活動

生徒が文化的・体育的活動に自主的・主体的に取り組むことが出来るよう、また学習との両立を図ることが出来るよう支援する。生徒が校内での自らの存在価値を認識し自己肯定感を高め、学校生活全般に能動的に臨むことが出来る環境を整える。

また、災害等に備え、危機管理体制を構築し生徒の安全を確保するとともに、地域の防災拠点としての役割を果たす。

8 美化・健康づくり

学校行事の切り替えの時期等を利用するだけでなく、年間を通して校内美化に努め、良好な学習環境を確保するとともに、生徒が生涯にわたり心身ともに健康的な生活を営めるよう、生徒の健康保持増進や体力づくりの推進に努め、相談活動の充実を図る。

9 学校運営・組織体制

本校の使命を達成できる機能的で活力のある学校組織を構築し、教職員が公務員としての自覚と使命感のもとに創造的な教育活動を展開する体制を目指す。経営企画室の経営参画を推進し、経営企画室職員と教員が連携して協力しながら学校全体で教育目標の達成に努める。

III 今年度の取組目標と方策

1 教育活動の目標と方策

(1) 学習活動

① 基本的学習習慣の定着。そのために、以下に挙げる取組を実施する。

ア 進路意識調査の実施 イ 学習時間の把握 ウ 1学年での到達度テストの実施

エ 課題・宿題・小テスト等の組織的な把握と計画的な実施

オ 部活動のあり方のルール(特に定期考査前)徹底による家庭学習時間の確保

② 基礎学力の定着。そのために、以下に挙げる取組を実施する。

ア 高校入試・学力調査・模擬試験等の結果分析による、指導計画の作成と適時の改善

イ 習熟度別授業や少人数授業の効果的な実施とその成果分析

ウ 1・2学年対象も含めた授業外での個に応じた補習・補講・個別指導の実施

③ 発展的応用力の育成。知的好奇心を刺激し主体的で深い学びへと導く魅力ある授業や取組の実践。

ア 1学年段階の授業から大学入試問題等に触れる取組(生徒の学習意欲に沿った指導の実施)

イ 教科・科目の特性を活かした課題探究学習や討論・レポート作成等を取り入れた授業の実施

ウ 一人1台端末を活用した授業の実施

エ 「高等学校等における多様な学習ニーズに対応した柔軟で質の高い学び」に対応する指導の実施と、双方向のオンライン授業や動画配信等の取組の推進

④ 教員個々の授業力と教科としての指導力の向上

ア 指導教諭による模範授業、指名制による授業研究、各種指定事業に伴う研究授業、これらを最大限活用して授業見学を実施し、相互に意見交換しながら教育力の向上を図る。

イ 生徒による授業評価に基づき授業改善に取り組む。

- ウ 全教員による年4回以上の相互授業見学の実施
- エ 月1回定例開催の教科主任会議を活用し、教科の組織目標の設定と生徒の学力状況把握によるPDC Aサイクルを実践する。
- オ 教科会の開催による、生徒の学力向上と指導計画の再検討、定期考査の統一化など、教科マネジメントを充実させる。
- ⑤ 文部科学省指定事業「DXハイスクール」、都指定事業「東京サイエンスハイスクール」、「Tokyo Metropolitan Global Education Network School for English Education (GNET-EE)」、「海外学校間交流推進校」や、「理数教育における教科等横断的な学びに係る取組について」等の都の教育施策の活用と推進
- ア オンライン英会話や実用英語検定試験を活用し、「聞く」「話す」を含む4技能5領域の英語力を伸ばす。
- イ 「CAN DOリスト」に基づく指導を実践し、「使える英語」力の向上を目指す。
- ウ 理数分野の外部機関主催の講演会やコンクール等へ積極的な参加を促すとともに、校内での講演会等の実施も推進し、理数分野への生徒の興味関心の喚起と同分野の指導の充実を図る。
- エ 「東京サイエンスハイスクール」指定3年目校として、充実したフィールドワーク等を実施する。
- オ DXハイスクールに相応しい環境整備と、9年度入学生からの「情報Ⅱ」必修修化に向けた校内体制の構築と準備を加速する。

(2) 進路指導

- ① キャリアガイダンスの実施による進路指導方針の周知・徹底。
- ② 進路講演会、進路懇談会、進路説明会、模擬授業・大学見学会等の実施。
- ③ 年3回以上の生徒個人面談の実施。必要に応じた三者面談の実施。
- ④ 保護者対象の進路説明会や講演会の開催による本校進路指導に対する保護者の理解と協力の獲得。
- ⑤ P T A・同窓会・後援会等の組織との連携の活性化。外部人材、及び用務支援員の活用による自主学習支援事業のさらなる積極的運用。チューターの配置による自習室開放の活性化。
- ⑥ 夏季休業期間に、3日を1クールとして8期に及ぶ講習期間を設置。教員全身体制での3年生対象講習の実施と1・2年生対象の講習・補習の充実。
- ⑦ 夏季休業期間における部活動や学校行事準備と、講習・補習の時間的重複の効果的調整。
- ⑧ 長期休業期間以外（平常授業期間放課後、土曜授業日放課後等）の補習・講習の実施。
- ⑨ 「進路の手引き」を作成・発行し、過去の進路データを生徒の進路決定に活用。
- ⑩ 各学年、年3回模擬テストを実施。第3学年はマーク模試と記述模試を実施。
- ⑪ 模擬試験の結果について、模試分析会、志望校検討会議、出願指導研究会を実施し、教員全員参加を原則として、学力と志望校を正確に把握し、指導に活かす。

(3) 探究活動

- ① 水曜5限「総合的な探究の時間」を最大限活用し、生徒が主体的に取り組める環境と時間を確保する。
- ② 進路・開発部による「総合的な探究の時間」の組織的実施体制を固め、外部協力機関との連携強化、年間指導計画の充実・定着と、指導内容の充実を図る。
- ③ 全学年・全生徒の探究活動を全教員で分担し、探究活動を生徒自らの進路発見・開拓や、社会課題の解決につなげることが出来るよう、大学、研究機関、企業等の外部機関との連携を強化する。
- ④ 図書館蔵書の時代に合わせた更新・刷新を行い、図書館機能のデジタル化による情報センターとしての機能の活性化や、探究活動における校内外の図書館の活用を促進する。

(4) 国際教育

生徒達が生きる時代に相応しい国際教育を実施し、日本人としての誇りとアイデンティティを確かなものにしながら、世界を俯瞰する視野を持ったリーダーとなる人材を育成する。その方策として、以下の取組を実施する。

- ① ボストン研修旅行の第3回目を、内容をさらに改善・充実させて実施する（3月末）。
- ② 国際感覚の把握や国際理解に資する学校独自の催しや研修を実施する。
- ③ 次世代リーダー育成道場への参加を奨励し、都主催の海外交流事業（東京グローバルフレンドシッププログラム、都立高校生等海外派遣研修、TGG、英語でジョブチャレ、等）にも積極的に申し込み、参加生徒を増やす。
- ④ 高校卒業後に直接海外大学へ進学する選択肢も提示し、海外留学の機会等を積極的に紹介する。
- ⑤ 日本の伝統文化理解に係る芸術鑑賞教室や留学生との交流会等の開催により、自己のアイデンティティの確立や日本文化理解を促進する。
- ⑥ 「東京サイエンスハイスクール」指定校として、「理数教育における教科等横断的な学びに係る取組」

を活用して第3回目のマレーシア研修を実施する。

(5) 生徒指導

- ① 集会、HR、部長会等を通じた指導の徹底。
- ② SNSルール の周知とインターネット・携帯電話等の適正利用の指導。
- ③ いじめ防止基本方針に則り、いじめは絶対許さない毅然とした姿勢と意志の育成。
- ④ 年3回のいじめ実態把握アンケートの実施によるいじめの未然防止、早期発見、早期対応の徹底。
- ⑤ 不審者の侵入・盗難防止に向けた施錠の徹底と生徒への常時注意喚起。
- ⑥ 交通安全教室や薬物乱用防止教室等の実施。特に交通ルールの遵守と自転車乗車時のヘルメット着用 の指導強化。
- ⑦ ボランティア活動を教科「人間と社会」の体験活動として認定奨励し、社会貢献の意欲向上を図る。

(6) 募集・広報活動

- ① 「都立高校EXPO」(都主催。第2回目)、「西部地区合同学校説明会(仮称)」(西部地区校長会主催。初実施)参加に向けて、学校広報体制を整える。
- ② スクールガイド及び学校紹介資料において、学校の特色及び今後の教育方針をより鮮明に打ち出す。レイアウト、内容の刷新も行う。
- ③ 校内外を問わず学校説明会等の募集広報活動に全教員が必ず参加する体制をとる。
- ④ 本校の教育活動を迅速にホームページにアップする。
- ⑤ 学校説明会3回、夏季休業中の学校見学会8回、授業公開週間を2回設定・実施する。このほか、体験授業、部活体験入部等を実施し、本校の授業や部活動への小・中学生の理解促進を図る。
- ⑥ 自校作成問題における良問の作成と全業務での確認の徹底により、入学選抜業務を適正に遂行する。
- ⑦ 市内中学・小学校への生徒派遣による学習支援、一般対象の施設開放、文化祭の一般公開等を実施して地域との交流を促進するとともに、都民へ広く学校を公開していく。

(7) 特別活動・部活動

- ① 学校行事について教職員は安全管理を徹底し、生徒に安心安全な活動環境を提供出来るよう指導する。
- ② 第九演奏会におけるプロの芸術家との共演や、3年生文化祭におけるクラス演劇の実施を通して、高い芸術性、社会性、真のコミュニケーション力、著作権・商標権等の実社会での法体系を尊重する態度等を身に付けさせる。
- ③ 部活動加入率100%程度を目指し、集中力、達成感等を身に付けることが出来る部活動を目指す。
- ④ 入部届・退部届を提出させて生徒の部活加入状況を正確に把握する体制を整える。
- ⑤ 休日活動届の提出や下校時間の遵守等、責任ある活動を実現させる。
- ⑥ 東京都の部活動ガイドラインに基づく本校の部活動方針に則り、各部活動で年間計画と目標、指導方針と内容・方法を明示し、ホームページで公表する。平日、週休日の両方において活動しない日を1日ずつ設けることを徹底し、兼部している生徒の活動日数にも留意しながら、メリハリのある活動を実現するとともに、家庭学習時間の確保を図る。
- ⑦ 部顧問や外部指導員に対して体罰根絶に向けた研修会を実施し、体罰実態調査を実施して迅速に対応するとともに、セクハラと受け止められるような指導がないよう、健全な部活動を推進する。
- ⑧ 避難訓練や水道局と連携した訓練により、災害時の心構えや対応方法を身に付けさせ、被災者支援を主体的に行える資質・能力を養う。

(8) 美化・健康づくり

- ① クラス、委員会、部活動等あらゆる生徒組織で校内美化に努め、学校行事等の前後に大掃除を行う。
- ② 部活動や、授業における一人1台端末の活用等をとおして、生徒の体力運動能力の向上を図る。
- ③ 各教科の授業や保健指導、その他の機会を通じて、食育の基本や心身の健康管理、生命尊重について生徒の意識を高め、各学年少なくとも年1回は、SOSの出し方に関する説明会や講義を実施する。
- ④ 各学年配置の特別支援教育コーディネーターと2名のスクールカウンセラーを活用し、生徒支援委員会を定期的に実施して、心身の健康に不安を持つ生徒や保護者に対する相談支援体制を強化する。
- ⑤ 生徒理解や特別支援教育についての研修会を年2回以上実施する。

(9) 学校運営・組織体制

- ① 昨年度改善に取り組んだ学校評価アンケートの内容と実施時期については今年度も踏襲する。
- ② 文部科学省指定事業、都指定5事業(予定含む)については、筆頭担当分掌を明確にし、特定教科の教員に偏ることのない事業推進母体を設け、組織的に取り組む。昨年度までの東京サイエンスハイスクール・DXハイスクール推進委員会は、今年度は教科主任会議を母体として運営する。
- ③ 一人1台端末の授業における積極的活用とICT機器等の活用による校務の効率化やペーパーレス化を引き続き推進するとともに、スクールサポートスタッフ等の新たに配置された人材を活用して、

教職員の業務縮減に取り組む。

- ④ 昨年度より一定の条件のもとで採り入れた在宅勤務を夏季休業中に拡充し、ライフ・ワーク・バランスを推進する。
- ⑤ 服務事故防止研修への参加を悉皆として体罰・セクハラ・SNS等の禁止事項への理解を徹底し、服務事故ゼロを目指して服務規律の醸成を強化する。

(10) 経営企画室

- ① 教育職員との良好なコミュニケーションを一層推進し、連携・協力体制を強化し、学校全体が一体となって経営計画の実現に向けて取り組む体制を構築する。
- ② 自律経営推進予算の計画的な執行、各種徴収事務の適時・適切な遂行、就学支援金等に関する適正かつ迅速な事務処理、中長期的見通しに立った施設・設備・備品の更新、図書館の蔵書充実と有効活用促進等を着実に実行するとともに、教員と情報共有を密にしながら経費削減に取り組む意識の醸成を図る。
- ③ トイレの改修計画が円滑に進むよう、教職員はもとより外部業者との連絡調整を丁寧に行う。
- ④ 服務事故防止研修への参加を悉皆とし、服務事故ゼロへの意識を醸成し、服務規律の醸成を図る。

2 重点目標と数値目標

		4年度実績	5年度実績	6年度実績	7年度実績	8年度目標	
1 広報活動を充実させ、募集対策に努める。	①夏季見学会来場者数	1043名	2283名	2334名	2024名	1800名	
	②学校説明会来場者数	750名	901名	923名	946名	900名	
	③入試説明会来場者数	352名	336名	464名	381名	450名	
	④推薦に基づく入学者選抜の応募倍率	3.32倍	3.54倍	3.43倍	2.31倍	3.50倍	
	⑤学力に基づく入学者選抜の応募倍率	1.47倍	1.56倍	1.53倍	1.31倍	1.50倍	
2 進学指導重点校としての進学実績を向上させる。	①東京大学現役合格者数	8名	11名	7名	13名	12名	
	②難関国公立大学現役合格者数 (東京・東京科学・一橋・京都・国公立医学部医学科)	51名	38名	51名	53名	60名	
	③旧帝大現役合格者数(東京・京都を除く)	12名	19名	25名	21名	20名	
	④国公立大学(4年制)現役合格者数	149名	117名	131名	139名	150名	
	⑤難関私立大学現役合格者数 (早稲田・慶応・上智・東京理科)	217名	161名	203名	211名	200名	
	⑥共通テスト 文系6教科9科目・理系6教科8科目受験者数	268名	253名	255名	266名	260名	
	⑦共通テスト文系6教科9科目得点上回り指数	1.31	1.32	1.28	1.31	1.30	
	⑧共通テスト理系6教科8科目得点上回り指数	1.26	1.25	1.27	1.24	1.25	
3 長期休業中の講習の充実	①長期休業中の講習講座数	153講座	127講座	134講座	127講座	130講座	
	②長期休業中の講習受講者数(延べ)	9870人	7542人	7718人	8396人	8000人	
4 学力向上のため、家庭学習時間を増加させる。	家庭学習時間	1年(春季)	1.65時間	1.62時間	1.63時間	1.44時間	2時間
		2年(春季)	1.78時間	1.58時間	2.16時間	1.48時間	2時間
		3年(春季)	2.77時間	2.95時間	2.90時間	3.07時間	4時間
5 探究活動の充実	①外部コンテスト・コンクール等出場者のべ人数			71名	156名	150名	
	②外部連携機関による講演会等の催し			8回	6回	8回	
	③探究活動に対する生徒の満足度(1・2学年アンケート実施による)				—	70%	
6 国際教育の充実	①海外研修旅行参加希望者数			47名	58名	60名	
	②次世代リーダー申込者数・合格者数			2名・2名	3名・2名	6名・4名	
	③海外交流関連事業の実施回数			11回	16回	10回	
7 授業力改善に努め、生徒の授業満足度を向上させる。	評価項目のうち、授業・学習・教育全般について「満足している」に対して「A:そう思う」、「B:ややそう思う」と答えた回答の割合	83.9%	75.3%	65.0%	91.0%	90.0%	
8 きめ細かい進路指導を実施し、進路指導満足度を向上させる。	評価項目のうち、本校の進路指導について「参考になり役立っている」に対して「A:そう思う」、「B:ややそう思う」と答えた回答の割合	80.7%	77.5%	69.4%	88.0%	90.0%	
9 特別活動・部活動を充実させ、生徒の学校満足度を向上させる。	評価項目のうち、学校生活について「充実感を感じている」に対して「A:そう思う」、「B:ややそう思う」と答えた回答の割合	91.2%	85.0%	73.8%	97.0%	95.0%	